

令和6年度 第4回 愛宕小学校 学校運営協議会 実施報告

1 日時 令和6年11月12日(火)14:30~16:00

2 場所 愛宕小学校 本館2階 会議室

3 挨拶

【委員長】

○学校運営協議会参加への謝辞

○今週末運動会

- ・子どもたちみんなががんばっている。11月実施で暑くなく、練習はしやすかったのではないかと心配されるが、無事できることを祈っています。

【校長】

○学校運営協議会参加への謝辞

○本日の日程、内容の確認

- ・前回(第3回)学校運営協議会で今年度の学校経営の進捗状況を報告させていただいた。今後は今年度の学校運営に対する学校評価をお願いします。

4 報告

○学校の様子、行事について報告

- ・10月8日3年生社会見学、10月10日5年生社会見学(同日PTA給食試食会)
 - ・10月17・18日修学旅行
 - ・10月28日地震津波避難訓練・・・ルートを一いつに変更。避難時間は昨年と変わらず。
 - ・11月2日ライブイン愛宕
- どの行事も無事行うことができた。

【いただいたご意見】

○津波避難訓練に関わって

- ・踏切が下がりっぱなしになることも想定される。白子駅方面からは線路が一直線であるが、千代崎駅方面からはカーブになっているので目視で確認ができない。また、建物や塀の倒壊も想定される。
- ・近鉄様へ地震時の踏切の対応を前もって聞いておくのもよい。ただ、以前突発的な対応時に近鉄様に聞いた話では、その時になってみないとわからないこともあるようである。
- ・万が一踏切を通れない場合は、アンダーパスを通るルートも考えなければならない。愛宕小学校よりも南のルートは、津波の被害が大きくなるのが想定されてはいるが、いくつかルートを知っておく必要はある。前もって、いくつかのルートを想定し職員による下見はしておく必要がある。状況によっては分かれて避難することも想定される。
- ・来年度以降の避難訓練は、考えられる中では一番安全な、今年度通った避難ルートを主とする。

5 協議

(1) 学校評価アンケート

○例年と大きく変更は無し。ご確認・ご協力をお願いします。

(2) 11月いじめ防止強化月間

○11月19日(月)ピンクシャツデー

- ・教職員、児童がピンクのものを身に着ける。

○非認知能力に関わるいじめ防止の取組について

- ・年度当初より様々な行事等で意識的に非認知能力の向上を目指して取り組んできた。今後取り組む運動会後のメッセージ交換・リーディングバディの取組を通して、自己肯定感を上げ、いじめ防止の素地をつくる。

【いただいた意見】

☆なぜピンクなのか、子どもたちは理解しているのか。

- 昨年は児童会が児童集会でピンクシャツデーの意義を発表した。今年度も意義を理解できる取組を継続していく。

☆いじめの実態は、異学年間か同学年間か。

- ほぼ同学年間ではあるが、両方ある。相手が嫌だと思ったら基本的には認知をしている。アンケートは未然防止のためにも行っている。嫌だとの訴えがあれば双方の思いを聞き取り、対応していくことが大切である。
- ・「あいさつ」も非認知能力の育成にとっても大切である。「知らないひとには声をかけない」とあるが、日頃からの関係づくりが大切である。それができれば、声のかけあい(あいさつ)は自然と生まれるだろう。犯罪の抑止にもつながる。

(3) 研究委託研究発表会に向けて

○学びの変容

- ・授業スタイルが教師主導の一斉(単線型)から、子ども主体(複線)へ変容してきている。愛宕小学校では、現時点ですべてがそうなるわけではないが、ICTを活用し、自分からの表現・発信が主体的にできるような授業を目指して取り組んでいる。
- ・3年生と6年生の取組から(学校だより)。研究授業の紹介。

【いただいた意見】

- ・たぶん、子どもはすぐに馴染むだろう。主体的から、中高になると総合的に進んでいくだろう。学校で習ったことを、どう使うかが今後大切になる。

(4) 来年度の行事予定

- ・令和6年度の予定で特に大きく変更を迫られるものはない。令和7年度も令和6年度とほぼ同様に予定している。

4 その他

- 学校アンケート及びコミュニティ・スクールに関する意識調査にご協力ください。

5 連絡

○今後の行事予定

- ・資料をもとに連絡

○第5回学校運営協議会 令和7年1月30日(金)13:30~15:30 会場:会議室

・授業参観及び学校評価アンケートの結果から見える成果と課題を提案する。関係者評価をいただく予定である。

6 教育支援課加藤先生よりご助言

- ・コミュニティ・スクールは、地域・子ども・学校の課題を解決するためにあるが、今回の防災に関わった議論は、まさにどうすれば子どもの安全を担保できるのか、地域、学校それぞれの立場でできることを考える議論であった。今後も継続していただきたい。
- ・非認知能力向上の取組は、今まで大事にしていたものを、より意識的に取り組むものである。例えば地域の方々があいさつをし、子どもを認めることで、つながりを深めるきっかけになる。さらには自己肯定感・社会性を高めることになる。今後も、地域でも取組をしていただきたい。